

令和 5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491500060	事業の開始年月日	平成25年10月1日
		指定年月日	平成25年10月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ湯河原温々		
所在地	(〒259-0301) 神奈川県足柄下郡湯河原町中央2-8-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年8月5日	評価結果 市町村受理日	令和5年10月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念【「安全とゆとり」のある介護】スローガンは「コミュニケーションを通じて自覚と思いやる心を忘れずに」です。この理念とスローガンをスタッフ一同実践しています。レク担当スタッフを配置し、年間行事計画を作成し企画書提出して実施しています。その中にはミニ運動会・お楽しみメニュー・おやつバイキング等があります。その様子はミモザ通信で毎月発行しています。ミモザ通信は家族・地域・行政・他事業所等に配布しています。外の掲示板も好評で地域の方や来訪者にもお褒めの言葉を頂いています。体調管理では訪問診療・訪問看護と24時間連携が取れていて緊急時対応もスムーズに出来ています。スタッフのスキルアップの為に毎月30分研修を行っています。この研修は年間計画に基づき職員が順番に講師になることで、学び業務に反映させています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年9月12日	評価機関 評価決定日	令和5年9月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇理念の共有と実践
・理念「安全とゆとりのある介護」の実践のため、職員でスローガン「コミュニケーションを通じて自覚と思いやる心を忘れずに」を作成している。コミュニケーションにより職員は利用者の思いや意向を把握し、また管理者は職員の困りごとを聞き取り職員がストレスを溜めないよう留意している。
◇地域との交流
・地域の祭りの山車が事業所の前を通るのを毎年見学している。
・近隣住民からは屋外掲示板を見て「楽しそう」と話しかけられたり、ひな人形をもらうなど良い関係を築いている。
◇毎月計画的に実施する「職場30分研修」
・計画に基づき年間16項目の「職場30分研修」を行っている。接遇、プライバシー保護、虐待の防止、身体拘束の適正化などを、職員が輪番で講師を勤め、内容を深く理解し、ケアに反映できるようにしている。
【事業所が工夫している点】
◇手作りのリングで歩行練習
・事業所周围は車が多く危険なので、利用者は屋内で口腔体操や介護体操、歩行練習を行っている。廊下の端からもう一方の端までの歩行練習は、手作りのリングを運んで回数を数え、利用者が楽しみながらできるよう工夫している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ミモザ湯河原温々
ユニット名	さつきの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			○ 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザ本社の理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」湯河原温々の理念は「安全とゆとりのある介護」です。この理念を共有実践している。	・理念「安全とゆとりのある介護」を各階事務室に掲示し、ミーティングで確認している。 ・理念の実践のため、職員でスローガン「コミュニケーションを通じて自覚と思いやる心を忘れずに」を作成した。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりでは自治会に入会継続して、回覧板も回覧して情報共有している。近隣住民の方とも挨拶は欠かさず掲示板にも行事情報を発信している。	・地域の祭りの山車が前を通るのを毎年見学している。コロナ禍前は近くの認知症カフェに参加していた。 ・近隣住民からは事業所の屋外掲示板を見て「楽しそう」と話しかけられたり、ひな人形をもらうなど良い関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年同様地域の人々には外の掲示板に毎月のレクリエーションの様子を公表し、認知症の方への理解を深めて頂けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から運営推進会議を施設内で行うことになりました。3年ぶりの顔合わせということもあり、介護課や民生委員さんも参加して意見交換が出来ました。その際ご入居者様も参加して頂き和気あいあいの中、実践出来た。	・2か月に1度、運営推進会議を開催し、湯河原町介護課職員、包括支援センター職員、民生委員、地域住民、利用者、家族が参加している。 ・新型コロナウイルスなどの感染症対策が話題となった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	湯河原町役場介護課や小田原福祉課とも連携を取り、ケアサービスの更新やコロナ対策の備品配布等密に情報共有している。	・湯河原町役場介護課とは緊密に連絡を取り、手続きや運営について助言を受けている。 ・湯河原町の敬老の日のイベント準備の手伝いに参加している。 ・小田原生活福祉課には生活保護利用者の状況を毎月報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員は年2回の研修計画で身体拘束および虐待防止について学び、2か月ごとに身体拘束適正化委員会で自施設での拘束事例について学び認識している。各階事務所や玄関には「身体拘束0作戦」を掲示している。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束適正化委員会を年6回行い、議事録を職員に回覧している。 ・研修を年2回行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・管理者は職員にスピーチロックに気を付けるよう注意している。 ・転倒対策などでやむを得ず拘束する場合は、家族の承認を得ている。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミモザ湯河原温々では「虐待は絶対に起こさない。」宣言を掲げている。職員は利用者に対する虐待の兆候を見逃さないように職員同士意見を言える環境を整えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待を防止するため、研修を年2回行っている。 ・管理者は職員と積極的にコミュニケーションをとり、困りごとを聞くなどして、職員がストレスを溜めないよう留意している。 	・神奈川県「自己点検シート(チェックリスト)」を活用して職員の虐待に対する認識を確認し、対策を話し合うなど、虐待防止に役立てることが期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度の理解を深めるために日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修を行っている。実際に後見人がいる方を知り関係性を理解出来る様になる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改正の場合はご利用者やご家族に不安が無いように説明し、納得したうえで署名押印の書式を交わす。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からのご意見やご要望は職員並びに外部へも反映させている。方法としては毎月の状況報告書にご意見ご要望の欄を設け返信して頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からは面会時に意見や要望を聞いたり、毎月の状況報告書の「ご意見ご要望」欄への記入をお願いしている。 ・コロナ禍でも面会したいという意見により、2~3人が玄関先で10~15分という制限付で面会可能とした。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的にスタッフ会議、アロー委員会会議を開催している。又希望者や契約更新者には1か月前に個別面談をしています。職員の意見や提案を運営に反映している。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は気になる職員に声をかけて話を聞くようにしている。個別面談で納得できるまで議論したり、意見や提案の内容によっては会議で議題に上げ、職員間で共有している。 ・職員提案により、ユニットで違っていた記録の書き方を統一した。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や技術、勤務態度等を考慮し定期的に給与に反映されている。スキル手当や環境整備手当も充実している。各自が向上心を持ち資格取得も奨励している。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士や実務者研修の資格取得を勧め、費用の半額を補助している。資格取得者には手当を支給している。 ・子育て中の職員には勤務時間を短縮するなど働きやすくしている。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミモザ株式会社の社が「人を育てる」であることから社外研修も充実している。30分研修も必然的に年間計画で行っている。講師も職員が担当して自主的にスキルアップしていく仕組みになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・新入職員は研修やベテラン職員によるOJTでケア技術の指導を受けている。その期間（1か月間）研修報告書を提出している。 ・職員が輪番で「職場30分研修」の講師を務め、内容を深く理解し、ケアに反映できるようにしている。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内では週1回ミモザエリア内の情報共有や意見交換を行っている。外部では行政主催のケアマネ交流会や多職種交流会に参加し意見交換している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始する時にはご本人及びご家族の要望や希望に沿っていくこと、不安な事を聞き取り解決していくようにし、信頼関係を構築するようにしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には必ず家族が困っている事や要望を聞き取り施設でのサービス内容を説明し不安を軽減し、信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が今、必要としているサービスを見極め支援していく事に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者はおお客様と云う立場を保ちつつ介護される側だけではなく暮らしを共にする同士の関係を築いている。共に洗濯たみやテーブル拭きや他者への消毒のお手伝い等を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も同様に本人との絆を大切にしてくれるように支援していく。面会時間も制限していたが緩和する方向に変更されている。毎月状況報告書やミモザ通信を郵送している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの関係の友人や隣人との面会も再開している。手紙や電話の取り次ぎも行い関係性が途切れないように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミモザ通信を毎月発行し、利用者の楽しそうな姿や行事の写真を紹介し、家族に郵送している。 ・利用者への電話を取り次いだり、手紙の返事を利用者が書いて出すのを手伝うなど、関係継続を支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間やトランプ仲間と隣同士にしたり会話が苦手な方の間に職員が入りコミュニケーションをとる支援をしている。1人1人が孤立しないように常に気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じてその後の相談や経過報告し、状況の把握に努める。その後の相談や支援も行う。		
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人の思いや希望を聞き、暮らし方の向上に努めている。困難な場合はなるべく近づける様に支援している。	・コミュニケーションを重視し、職員は利用者に積極的に話かけ、思いや意向を把握に努めている。把握内容はミーティングで共有している。 ・麺類が食べたいという意見で焼きそばを提供したり、横になりたいという希望は介護計画に反映した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や趣味を聞き取り提供できるように努めている。塗り絵やクイズ、頭の体操等を提供したりグループでのレクリエーションを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方を把握し心身状態が穏やかに過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でケアの方針や現状を情報共有し介護計画に反映させている。	・介護計画の有効期間は6か月で、状態変化時にも見直している。 ・有効期間終了前、ケアマネジャーを中心にモニタリングを行っている。モニタリング結果と利用者や家族の意見をもとに、サービス担当者会議で介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果気づきや工夫を個別に記録し職員間で情報共有している。また必要なら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない柔軟な支援や対応をしている。その時々にも現れるニーズを把握しケアプランを変更している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し個々が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様に支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問看護隔週に受診し健康状態や変化を素早く診断でき適切な医療を受けられるように支援している。緊急時には24時間対応可能で指示を受けることができる。	・内科医の月2回訪問診療、看護師の月2回健康チェックがあり、24時間医療連携体制を敷いている。歯科医の毎週訪問がある。 ・従来のかかりつけ医へは家族が同行し、結果の報告を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師や訪問看護師との連携も取れている。ご利用者の体調管理を行い、急変の対応や応急処置を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は安心して治療が出来、早期退院に向けて病院関係者と連携を取り合い情報共有している。看護サマリーの元退院後も同様の支援を受けれるようにしていく。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化看取りに関しては入居契約書を交わす際に書式と説明を行い同意書を交わしている。医療関係者と連携を取り合い支援を行っている。	・入所時に重度化や終末期に向けた事業所の指針を、本人と家族に説明している。 ・重度化、終末期には、医師・看護師・家族と事業所が連携して適切に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて、緊急連絡網は事務所の目に届きやすい場所に貼っている。緊急時マニュアルは定期的に30分研修で職員全員に周知徹底している。実践にも役立っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。避難場所も訓練や研修等行い職員に周知徹底している。夜間想定や地震、火災などの想定し計画実行している。	・年2回(含夜間想定)避難訓練を実施し、消防署員指導の下で地震・火災通報・避難誘導・消火の訓練を行っている。 ・飲料水・食料を3日分備蓄し、防災品をリスト管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。特に接遇に関する研修を行い不適切な言動があれば個別に教育している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意見を尊重し、尊厳を損なわない対応や言葉かけを基本としている。 ・職員が輪番で講師を務める、年間計画の職場30分研修で、接遇・プライバシーの確保に関し学んでいる。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者が自己決定出来る様に働きかけている。本人の思いや希望を表しやすくする環境作りも支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活がその人らしい暮らしの延長線上にある様にどの様に過ごしたいか希望を導いて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを聞きその人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや好き嫌い、量や形態を把握し、提供している。出来る方にはテーブル拭きや他者の手指消毒などお手伝いして頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食材と献立を業者から取り寄せ、職員が利用者に応じ、きざみ食、ミキサー食等加工している。 ・利用者はテーブル拭き、消毒、コップ片付け等を手伝っている。 ・お楽しみメニュー、行事食、誕生日のお祝い食を楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量はその都度記録している。1日の摂取量が一目でわかる様に検温表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアも行い、出来ない人は職員が介助している。週1回の訪問歯科で治療や洗浄を行っている。無料歯科検診を殆どの方は受けていただいている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間毎に誘導声掛けを行っている。車椅子の方には出来る事は見守り出来ない方は自立に向けた支援を行っている。	・排泄チェック表により、また、利用者の仕草、様子をみてトイレ誘導し、自立に向けて支援している。ほぼ全員がリハパンを使用している。 ・夜間は2時間ごと巡回し、必要に応じてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には水分多めや運動など試み腹部マッサージなども行っている。3日出ない時は医師の指示に従い処方通りに行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回入っていただいている。拒否がある場合は無理強いせず、臨機応変に他者と交代したりして対応している。入浴中も全身状態を観察して異変があれば報告している。	・週に2回の入浴を基本とし、入浴したがない利用者には時間や日を変えて声掛けしている。 ・入浴を利用者と職員が1対1でゆっくり話せる良い機会と捉え大切にしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に沿った生活パターンを把握し提供している。休息する方、リビングで過ごされる方、歩行訓練される方、その時々状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を確認し内服薬の効果や副作用を理解している。訪問診療の時にも医師に状況を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションなど年間計画を作成し実施している。楽しく笑顔になるように全員参加型の行事を工夫して提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症対策も緩和してきたのでお天気の良い日は玄関先の花壇や外気浴を行っている。家族が散歩や受診で関わる方もいる。湯河原町タクシー券を使用して行ける方は紅葉見学などを計画している。	・事業所周围は車が多く危険なので、日常的には玄関先で外気浴や花壇の鑑賞をしている。 ・利用者は室内で口腔体操や介護体操をしている。歩行練習では回数を手製リングで確認して楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方なので物盗られ妄想が多い為、基本お金は持たせていません。貴重品も入居時に持ち込まないように説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人の電話の取り次ぎや手紙などのやり取りが出来る様に支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎日清掃している。ご利用者にとって不快な環境を与えないように配慮、工夫している。その都度季節感を出す工夫をしている。玄関、リビング、トイレ階段にも季節ごとの飾りつけをしている。	・所内は清潔で清掃が行き届き、共有空間は照明や換気に配慮している。 ・リビングや廊下に行事の写真、利用者の作品等を掲示している。今日の日付パネルの掲示を利用者が毎日入替えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居場所を提供している。席順も気の合う合わないを考慮し変更している。テーブルの配置も変えたり工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大事な仏壇や馴染みの物を飾ったり、カレンダーを貼ったり、居心地よく過ごせるように支援している。中には使い慣れたテーブルや椅子を持って来る方もいる。	・居室にはエアコン、照明、カーテン、クローゼット、ベッドを備え付けている。利用者は使い慣れた家具や仏壇を持ち込み、家族写真、利用者の作品を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全・安心な環境で生活出来る様に支援している。バリアフリーで障害物が無い環境を提供している。歩行や立ち上がりや移動がスムーズに出来る様に支援している。		

事業所名	ミモザ湯河原温々
ユニット名	うめの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザ本社の理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」湯河原温々の理念は「安全とゆとりのある介護」です。この理念を共有実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりでは自治会に入会継続して、回覧板も回覧して情報共有している。近隣住民の方とも挨拶は欠かさず掲示板にも行事情報を発信している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年同様地域の人々には外の掲示板に毎月のレクリエーションの様子を公表し、認知症の方への理解を深めて頂けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から運営推進会議を施設内で行うことになりました。3年ぶりの顔合わせということもあり、介護課や民生委員さんも参加して意見交換が出来ました。その際ご入居者様も参加して頂き和気あいあいの中、実践出来た。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	湯河原町役場介護課や小田原福祉課とも連携を取り、ケアサービスの更新やコロナ対策の備品配布等密に情報共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員は年2回の研修計画で身体拘束および虐待防止について学び、2か月ごとに身体拘束適正化委員会で自施設での拘束事例について学び認識している。各階事務所や玄関には「身体拘束0作戦」を掲示している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミモザ湯河原温々では「虐待は絶対に起こさない。」宣言を掲げている。職員は利用者に対する虐待の兆候を見逃さないように職員同士意見を言える環境を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度の理解を深めるために日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修を行っている。実際に後見人がいる方を知り関係性を理解出来る様になる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改正の場合はご利用者やご家族に不安が無いように説明し、納得したうえで署名押印の書式を交わす。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からのご意見やご要望は職員並び外部へも反映させている。方法としては毎月の状況報告書にご意見ご要望の欄を設け返信して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的にスタッフ会議、アロー委員会会議を開催している。又希望者や契約更新者には1か月前に個別面談をしています。職員の意見や提案を運営に反映している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や技術、勤務態度等を考慮し定期的に給与に反映されている。スキル手当や環境整備手当も充実している。各自が向上心を持ち資格取得も奨励している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミモザ株式会の社是が「人を育てる」であることから社外研修も充実している。30分研修も必然的に年間計画で行っている。講師も職員が担当して自主的にスキルアップしていく仕組みになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内では週1回ミモザエリア内の情報共有や意見交換を行っている。外部では行政主催のケアマネ交流会や多職種交流会に参加し意見交換している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始する時にはご本人及びご家族の要望や希望に沿っていくこと、不安な事を聞き取り解決していくようにし、信頼関係を構築するようにしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には必ず家族が困っている事や要望を聞き取り施設でのサービス内容を説明し不安を軽減し、信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が今、必要としているサービスを見極め支援していく事に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者はお客様と云う立場を保ちつつ介護される側だけではなく暮らしを共にする同士の関係を築いている。共に洗濯たみやテーブル拭きや他者への消毒のお手伝い等を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も同様に本人との絆を大切にしてくれるように支援していく。面会時間も制限していたが緩和する方向に変更されている。毎月状況報告書やミモザ通信を郵送している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの関係の友人や隣人との面会も再開している。手紙や電話の取り次ぎも行い関係性が途切れないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間やトランプ仲間と隣同士にしたり会話が苦手な方の間に職員が入りコミュニケーションをとる支援をしている。1人1人が孤立しないように常に気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じてその後の相談や経過報告し、状況の把握に努める。その後の相談や支援も行う。		
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人の思いや希望を聞き、暮らし方の向上に努めている。困難な場合はなるべく近づける様に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や趣味を聞き取り提供できるように努めている。塗り絵やクイズ、頭の体操等を提供したりグループでのレクリエーションを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方を把握し心身状態が穏やかに過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でケアの方針や現状を情報共有し介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果気づきや工夫を個別に記録し職員間で情報共有している。また必要なら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない柔軟な支援や対応をしている。その時々にも現れるニーズを把握しケアプランを変更している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し個々が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様に支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問看護隔週に受診し健康状態や変化を素早く診断でき適切な医療を受けられるように支援している。緊急時には24時間対応可能で指示を受けることができる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師や訪問看護師との連携も取れている。ご利用者の体調管理を行い、急変の対応や応急処置を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は安心して治療が出来、早期退院に向けて病院関係者と連携を取り合い情報共有している。看護サマリーの元退院後も同様の支援を受けれるようにしていく。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化看取りに関しては入居契約書を交わす際に書式と説明を行い同意書を交わしている。医療関係者と連携を取り合い支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて、緊急連絡網は事務所の目に届きやすい場所に貼っている。緊急時マニュアルは定期的に30分研修で職員全員に周知徹底している。実践にも役立っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。避難場所も訓練や研修等行い職員に周知徹底している。夜間想定や地震、火災などの想定し計画実行している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。特に接遇に関する研修を行い不適切な言動があれば個別に教育している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者が自己決定出来る様に働きかけている。本人の思いや希望を表しやすくする環境作りも支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活がその人らしい暮らしの延長線上にある様にどの様に過ごしたいか希望を導いて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを聞きその人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みや好き嫌い、量や形態を把握し、提供している。出来る方にはテーブル拭きや他者の手指消毒などお手伝いして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量はその都度記録している。1日の摂取量が一目でわかる様に検温表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアも行い、出来ない人は職員が介助している。週1回の訪問歯科で治療や洗浄を行っている。無料歯科検診を殆どの方は受けていただいている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間毎に誘導声掛けを行っている。車椅子の方には出来る事は見守り出来ない方は自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には水分多めや運動など試み腹部マッサージなども行っている。3日出ない時は医師の指示に従い処方通りに行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回入っていただいている。拒否がある場合は無理強いせず、臨機応変に他者と交代したりして対応している。入浴中も全身状態を観察して異変があれば報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に沿った生活パターンを把握し提供している。休息する方、リビングで過ごされる方、歩行訓練される方、その時々状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を確認し内服薬の効果や副作用を理解している。訪問診療の時にも医師に状況を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションなど年間計画を作成し実施している。楽しく笑顔になるように全員参加型の行事を工夫して提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症対策も緩和してきたのでお天気の良い日は玄関先の花壇や外気浴を行っている。家族が散歩や受診で関わる方もいる。湯河原町タクシー券を使用して行ける方は紅葉見学などを計画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方なので物盗られ妄想が多い為、基本お金は持たせていません。貴重品も入居時に持ち込まないように説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人の電話の取り次ぎや手紙などのやり取りが出来る様に支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎日清掃している。ご利用者にとって不快な環境を与えないように配慮、工夫している。その都度季節感を出す工夫をしている。玄関、リビング、トイレ階段にも季節ごとの飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居場所を提供している。席順も気の合う合わないを考慮し変更している。テーブルの配置も変えたり工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大事な仏壇や馴染みの物を飾ったり、カレンダーを貼ったり、居心地よく過ごせるように支援している。中には使い慣れたテーブルや椅子を持って来る方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全・安心な環境で生活出来る様に支援している。バリアフリーで障害物が無い環境を提供している。歩行や立ち上がりや移動がスムーズに出来る様に支援している。		

目標達成計画

事業所名 ミモザ湯河原温々

作成日 令和5年 9月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	1階2階のスタッフが分かれての勤務の為、スタッフの急病等に対応出来ない場合がある。	職員が行き来する事で各フロアの欠員時における不安を無くし、ご利用者の情報共有出来る風通しの良い職場にしていこうと思う。	職員面談を実施、職員のフロアの行き来に対応出来る様なシフト作りを行い少しずつ改善していきたい。	3ヵ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。